

言語文化研究科言語社会専攻博士前期課程のカリキュラム・マップ

【専門教育科目 概要】

1. 専攻言語【必修】
専攻とする言語の知識を得るとともに運用能力を高めるための授業科目群
2. 地域言語論
専攻する言語圏の言語、文化表象、歴史と社会についての専門的な知識を得るための授業科目群
3. 広域言語論
グローバルな視点から専攻する言語圏の言語と文化を捉える力を養うための授業科目群
4. 地域言語社会特論
専攻する言語圏の言語と文化の特定テーマに関する研究を行う授業科目群
5. 複合領域特論
多様な領域にまたがるテーマを研究する授業科目群
6. 関連研究言語
研究に必要な専攻言語以外の言語に関する知識を得るための科目群

【修了要件単位数】

専門教育科目 20単位以上	高度国際性涵養 教育科目 2単位以上	高度教養教育 科目 2単位以上	→ 左記の要件を満たした 上で、合計30単位以上 を修得
------------------	--------------------------	-----------------------	------------------------------------

○授業科目

必修科目

独自の教育目標

最先端かつ高度な専門性と深い教養

1. 専攻言語（特別演習） ※同一の言語で8単位を修得（うち2単位を高度国際性涵養教育科目に充当）

中国語 朝鮮語 モンゴル語 インドネシア語 フィリピン語 タイ語 ベトナム語 ビルマ語 ヒンディー語 ウルドゥー語 アラビア語 ペルシア語
トルコ語 スワヒリ語 ロシア語 ハンガリー語 ドイツ語 デンマーク語 スウェーデン語 英語 フランス語 イタリア語 スペイン語 ポルトガル語

選択科目

高度な国際性

高度な教養

2. 地域言語論

アジア言語構造論Ⅰ～ⅧⅢ
アジア言語文化表象論Ⅰ～ⅧⅢ
アジア言語文化資源論Ⅰ～Ⅸ
アジア言語社会構造論Ⅰ～Ⅲ
アジア言語社会動態論Ⅰ～Ⅶ
アフリカ言語構造論Ⅰ～Ⅱ
アフリカ言語社会構造論Ⅰ～Ⅱ
ヨーロッパ言語構造論Ⅰ～Ⅸ
ヨーロッパ言語文化表象論Ⅰ～Ⅴ
ヨーロッパ言語社会構造論Ⅰ～Ⅳ
ヨーロッパ言語社会動態論Ⅰ～Ⅶ
イギリス言語文化表象論Ⅰ
イギリス言語文化資源論Ⅰ
イギリス言語社会動態論Ⅰ
アメリカ言語構造論Ⅰ
アメリカ言語文化表象論Ⅰ～Ⅳ
アメリカ言語社会構造論Ⅰ
アメリカ言語社会動態論Ⅰ

3. 広域言語論

広域言語実践論Ⅰ～Ⅶ
広域言語文化論Ⅰ～Ⅴ
広域対照言語論Ⅰ～Ⅴ
広域言語動態論Ⅰ～Ⅱ

4. 地域言語社会特論

外国語教授学習研究
現代英米政治外交史特殊研究
ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説
英米言語社会論
世界文学・文化論
アジア・アフリカ言語社会研究序説
アジア言語動態論
アジア地域社会論

5. 複合領域特論

現代ジャーナリズム論
現代ジャーナリズム論
地政学的研究特論
通訳翻訳学特論
生涯学習論
広域イスラム社会論
言語文化資源の活用と情報処理研究
多言語共生社会演習

6. 関連研究言語

古典漢語 アイヌ語 現代チベット語 古典チベット語 カレン語 シャン語
モンクメール諸語 オセアニア諸語 サンスクリット語 バーリ語
ベンガル語 ウィグル語 ソグド語 カザフ語 オスマン語 ヘブライ語
アラム語 シリア語 西アフリカ諸語 東・南アフリカ諸語 古代教会スラブ語
ウクライナ語 ポーランド語 リトアニア語 エスペラント語 ラテン語
ギリシャ語 ウズベク語 セルビア語 グルジア語 チェコ語

修士（言語文化学）の学位授与

論文審査及び最終試験に合格

修士論文の作成

高度なデザイン力

○研究指導プログラム

⑦修士論文題目の提出
(M2)

⑥最終発表会
(M2)

⑤修士論文テーマの決定
及び修士論文概要の提出
(M2)

④予備審査面接
(M2)

③中間発表会
(M1)

②修士論文構想の提出
(M1)

①研究計画書の提出
(M1)